No.81

校報

KOBE REFORMED THEOLOGICAL SEMINARY 神戸改革派神学校

「始めの一歩」

ステファン・ファン・デア・ヴァット

2009年4月に、南アフリカ・オランダ改革派教会から派遣された宣教師で、ステファン・ファン・デア・ヴァットと申します。神戸改革派神学校の専任教授としての職を与えられたことを心より感謝しております。宣教師として、私と妻のカリナそして四人の子供たちの神学校における生活すべてが、主の御栄光を表すことになりますようにと、お祈りしています。

私たちが（日本の教会と生活のことに関して）ここまで成長するためには、見えるところで、また見えないところで、どれほど支えられてきたことかと、最近改めて思わされました。徳島教会の皆様をはじめ、四国中会各教会の皆様にも大変お世話になって、本当に胸に感謝の念が溢れています。昨年の終わり頃から神学校の皆様には家族として心から受け入れていただいており、喜びでいっぱいです。神学校での格別な生活にはだいぶ慣れてきて、ここに居る恵みを楽しんでいます。

私が現在神学校で教える内容は、牧会学・牧会ケアとなっています。牧会学という領域はまだ日本できちんと定着していませんので、この分野の価値と意義を、とりわけ日本キリスト改革派教会の中で徐々に広げたいと思っております。今学期、無事にその始めの一歩を踏み出せました。牧師の訓練や養成のために、今こそこの分野でベストを尽くして必要な役割を果たすべきだと思っています。

その中で、特に宣教の業と牧会の業を、もっとしっかりとした形で神学的に結びつけたい、という思いもあります。牧会神学と牧会ケアの宣教的な側面と有用性について、もっと深い神学的な思索が、とりわけ日本では必要とされていると思います。従って、宣教的な牧会・牧会的な宣教を同時に強調しつつ、それぞれの有意義性を把握することが重要だと思っています。

この神学校に私が関わることによって、教派全体の牧会の働きが実り多いものとなるよう、何らかの貢献ができればと祈っています。お祈りに覚えていただけますならば幸いです。

卒業生挨拶

本科生
川栄 智章
（かわえ　ともあき）

東部中会 せんげん台教会

主の御名を褒め称えます。2016 年 6 月 28 日、無事に神戸改革派神学校の卒業式を終えて、新しいスタート地点に立たせていただきました。卒業までに私に親身に関わってくださり様々なご指導と祈りをもってお導きくださった先生方に感謝を申し上げます。

私は、韓国の合同派総神神学校を卒業した後、2014 年 1 月に編入して二年半学ばせていただきました。神学校は決して教育機関として裕福な環境とは言えませんが、事務の方々の日々の努力と諸教会の献金によって支えられ、許された状況の中で常に学生を配慮した、最高の学びを提供してくださった事に心より感謝しております。また、神学校の図書館は学ぶために必要十分である素晴らしい書籍を日々補充してくださり、学生の学びを支えてくださいました。学生食堂では、学びの大変さや苦しみを吹き飛ばすかのようにいつも明るくて楽しい時間を持つことができたことを感謝しています。そして何よりもいつも清潔で美しい学び舎を与えられ、気分よく学業に集中して打ち込むことができたことが感謝でした。また、神学校では、学生の霊性訓練のために毎朝朝祷会がありました。朝祷会の司会兼ショートメッセージが学生に持ち回りで回ってくるのですが、私にとってはこれが説教を作成するための大変良い訓練になりました。また、週に二回、建物内と外回りの掃除がありました。皆で協力して自分たちの神学校を掃除するのは至福の時間でした。神学校で学んだ一つ一つのことが今では私の大切な財産となっています。このような素晴らしい伝統をこれからもぜひ受け継いでいってもらいたいです。

神学校卒業後は東部中会のせんげん台教会に赴任し神様と教会に仕えることになっております。神学校で受けた恵みを大切にしつつ、神様の通り良き管になり、せんげん台教会の方々にも恵みを分かち合えるように祈りつつ歩んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本科生
古澤　純人
（ふるさわ　すみと）

四国中会　徳島教会

憐み深い主の導きと皆さまのお祈りに支えられて、神学校を卒業することができました。神学校での在籍は、研修所を卒業してからの1年半という期間でしたが、とても貴重な学びと訓練を受けることができました。特に、神学校の静かな環境の中で、学びに集中しやすく、将来の働きのことなどを思い巡らす時間が多く与えられました。そのことが私の召命感を強めることとなり、教会で働くための良い備えの時となりました。

私は牧師として教会に仕える志を与えられてから5年余の日々を過ごしてきました。人一倍長い神学生の期間でしたが、私にとっては必要であり、かけがえのない時間でありました。時に自分が進んでいる道は合っているのかと問い続ける神学生生活でした。主が道を開いてくださるのでなければ、歩みを進めることはできないということをあらゆる出来事を通して経験しました。

主が働き場として私に備えてくださったのは徳島教会でした。その徳島教会を牧会しておられたトビー・デベット先生、ステファン・ファン・デア・ヴァット先生と卒業する直前に神学校でお交わりが与えられました。このように導かれたのは主の特別な計らいであることを強く覚えます。教会に遣わされるにあたり、共に祈りを合わせ、ゆっくり語らい、力強い励ましをいただいて、「外向きで開かれた、伝道的な教会」という伝道・牧会・教会形成における明確なヴィジョンを与えられました。教会の歴史や伝統を継承しながら、徳島教会に集う方々と共に成長していきたいと願っています。

このように最後まで主がとらえていてくださり、恵みのうちに神学生生活を過ごせたことを感謝しています。主が御心を示して開いてくださった道を忠実に歩んでいきたいと思います。

「主は人の一歩一歩を定め　御旨にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。」

詩編 37:23,24

別科生
金田　知朗
（かねだ　ともあき）

三年三ヶ月の修業課程を全て終えた今、卒業された神学生の先輩方がそうであったように私も今、万感の思いを胸に抱きながら学舎を後にすることになりました。

入学当初から語学の学びの厳しさの洗礼を受け、その後も多くの神学や教科を集中して学び、学期毎に実施される各教科の試験を終えると、更に次の教科を学んでいくという怒濤の流れは、高齢になった自分にとっては過酷なものでした。しかし、一度も辛いから辞めるという選択肢は私にはありませんでした。今ある坂を登り詰め、高みに立った者こそが味わうことのできる至福の喜びを夢み、日々睡眠時間を削り、眠さと戦いながらも朝祷会出席を続けるという生活習慣によって一日のスタートを主の御前でぬかずき、主への信仰の思いを常にもって臨む姿勢を堅持することができました。

また、三年間派遣先の教会では、多くの教会員の交わりと牧師先生や奥様のお働きをはじめ、多くの方々の奉仕する姿を見て学びながら、教会形成において何が大切なのかということを学ばせてもらいました。男山教会での二年間と北神戸キリスト伝道所での交わりは、終生忘れることができないものとなっています。今年の四月から卒業間近まで実施した卒業記念説教を通して、多くの教会での奉仕と交わりを深め、卒業後の神学生の心備えを主に在って持つことができたことは感謝でした。

もう一つ私にとって決して忘れることができないのは、夏期伝道でした。私は宮城県の白石契約伝道所、仙台めぐみ伝道所、そして新潟伝道所に派遣され、そこでの心温まる多くの方々との交わりは、あらためて心と心のふれ合いが如何になくてはならないものかを強く知らされました。

これら多くの方々の出会いと交わり、そして心温まる助言があってこそ卒業できたと思っています。皆様の励ましと支えを卒業後の歩みに生かせるよう今後とも更に励んでいきたく思います。

別科生
佐野　結子
（さの　ゆいこ）

毎朝の散歩で裏六甲の山々、空の鳥、野の花を眺め、朝祷会での詩編歌と御言葉によって、体と魂は造り主なる神様に養われました。神学の各分野に亘って広く深く、先生方に手取り足取り、神学の手ほどきをいただき、職員の方々にお世話になりました。東京の神学研修所で 2 年、神学校で 2 年 3 か月、50 代の半ばに 4 年 3 か月、卒業まで豊かな学びをいただき、主は召しに従って真実に、全てを成し遂げ、その召命感をより強くしてくださいました。

経済的な必要を綱渡りの様に支えられ、年齢のハンディにも拘らず、知恵と知識の霊、聖霊を豊かに賜い、神学を知性だけでなく体全体でわかるようにしてくださり、寮生活と、教会の現場で、特に派遣先の甲子園伝道所、夏期伝道先の青葉台教会にて訓練されました。東京の江古田教会の兄弟姉妹の祈りと尊い献げ物に支えられ、また東京の住まいの維持管理を長女が、大阪にいます鍼灸師の妹に体を診てもらい、同じ学び舎に息子が身近におり、家族に助けられました。同時に次女が急に天に召された喪失感と、父も急に天に召され、実家の片づけ、遺された母の施設入所と、大変めまぐるしい日々でした。子どもの教育、障害、家族の死、老いと介護とはどういうことなのか、御心を尋ね求めました。入学式に吉田隆校長より、「魂の医者を育てる」という大きなテーマをいただき、果たして自分がそのようなものになれるのか、と問い続けました。

聖書学、歴史神学、教義学それらすべてを統合させて教会の現場で実践される、実践神学の一つとして、牧会学があります。牧会ケアは、4月から専任教授として南アフリカからお出でくださったステファン先生に教わる恵みにあずかりました。その中で、牧会者の喪失感、悲しみ、嘆きは、他者を深く理解することに役立つことを学びました。私自身の嘆きを通して、キリストと結ばれ、贖われ、癒やされた喜びを伝え、主を証しし、神の国の再創造に尽くしたいと願います。（イザヤ 61：1 ～ 3）

入学生挨拶

本科生
木村　英樹
（きむら　ひでき）

中部中会　関キリスト教会

この春、入学しました木村英樹と申します。かつて他教派で牧師として奉仕をしておりましたが、その働きを離れることになりました。再出発を祈る中で、中部中会の関キリスト教会に導かれました。暮らした日々は1年半ほどの短い時間でしたが、この教会での教会生活、この町で働いたことは、私の人生の大きな転換点となりました。他者のためにとりなすこと、旧新約聖書全体から学ぶこと、その福音に生きること、福音を届けること、基本的なことを学び直して、妻かおりと二人で神戸に来ました。

自分で口にするのは変ですが、どちらかというとまじめな性格で、私は自己義認の罪と戦ってきました。それはこれからも続くでしょう。生活のあらゆる面で、神の御顔の前で生きることを心に刻んで学び仕えたいと願っています。神学校ではたくさんの知識を身につけますが、神を畏れ、戒めを守る学びと訓練となりますようにお祈りください。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

本科生
金原　堅二
（きんぱら　けんじ）

西部中会　鈴蘭台教会

金原堅二と申します。私が神学校に献身を考えるようになったのは大学生の頃でした。私は神学部のある大学に通いましたが、生まれた頃から改革派教会で育った私にとっては他教派に触れることは驚きの連続でした。その中で自分の信仰について見つめなおし、改革派教会の中で神様に仕えていくあり方を思ったときに、牧師としての献身を考えるようになりました。

そして、その思いは日が経つにつれて強められていきました。それは、人に神様について伝えたいと思ったときに、まず私自身が神様のことをよく学ばないといけないと感じたからです。初めは迷いがありましたが、自分自身が神様との関係性を求めるほど、学ぶことの大切さを思わされたのです。

以上のような体験から、神学校で学び、献身する決意を致しました。現在は、周囲の方々から多くのことを教えられながら、日々の学びをすすめています。よろしくお願い致します。

本科生
小河　敬太
（こがわ　けいた）

日本福音キリスト教会連合

私は沖縄でユースパスター3年（那覇ホーリネス）その後、牧師を5年（日本福音キリスト教会連合）し、後半は3年間KGKの非常勤主事をさせていただいておりました。

沖縄は癒しの島のイメージとは裏腹に戦争の傷跡が多く残されていました。特に荒れた青少年や児童への伝道の重荷が与えられ力を注ぎました。またクリスチャン人口は他県と比べて多いのですが、キリスト教会のカルト化の被害が深刻な問題となっていました。そこで沖縄キリスト教会相談窓口を開設し弁護士と精神科医、カルト被害支援の専門家と共に支援を始めました。その中で聖書的な教会とは何か、牧師とは本来どのような存在なのかを深く問うようになり、悩みの中で改革派神学に立っておられる KGK の先輩主事や改革派神学校の先生との交わりが与えられ、その問いの答えが改革派神学にあると確信し本年度入学させていただきました。

これから魂の医者を目指して頑張ります。よろしくお願いいたします。

特別研究生
崔　現郁
（ちぇ　ひょんうく）

KPCA神戸キリスト教会

私は神戸市三ノ宮にある小さいけど美しい教会で牧会をしています。2014 年 11 月から今の教会に来ましたがその前までは 奈良で、約 8 年間開拓伝道をしました。教会に来て徐々に聖徒たちとも仲良くなりました。私は 2005 年牧師の按手を受け 10 年くらいの時間が経ちましたが、日本宣教の召命を持っている者として日本の神学校でも学んでみたい願いがありました。それである日本の牧師から神戸改革派神学校を勧められました。何年か前教団で良くない事件が起こり、教役者が霊的に目を覚ましていないと、教会に悪い影響を与えるのを肌で感じました。それで、自分のためにも、教会のためにも再教育を受けたくて入学に導かれました。

牧会の現場を経験しながら学ぶと、任された教会をどのように建てていくべきか、日本宣教にどんな役割ができるかを具体的に学ぶ時間になると思います。日本の教会で青年たちのリーダーが立てられるように祈ります。

Retreat

リトリート

別科生１年生　金エノク

私は、リトリートの委員として今回のスケジュールなどを準備してまいりました。神学生の若者に対する思いが強く、KGK総主事の大嶋重徳先生ご夫妻を招くことになりました。先生は、人気のある講師で、『若者と生きる教会』という本を最近出しておられます。

リトリート会場は、去年と同じ千刈キャンプ場です。おいしい食事と美しい自然の印象が残っており、ワクワクする気分でリトリートが始まりました。教授になられたステファン先生の活躍をも期待していたのですが、チームに分けて同じ言葉を当てるゲームの時、先生のユーモアは見事でした。

夜にあったキャンプファイヤーの時間は、指での賛美に合わせて踊り、とても楽しい時間になりました。また、新しく入学した予科生の4人の証を聞きながらも、我々が同じビジョンを持っている愛の共同体であることを実感しました。リトリートの夜は、心を合わせる暖かい時間でした。

大嶋先生の話は若者たちが楽しんで聞ける魅力がありました。若者の目線で話しておられ、何よりも、若者に対する愛が感じられました。若者たちを神様の方へ導きたいと思う熱心さがありました。そして、人間の知恵を賢く使いながら、若者が現実に必要とすることを与えようとしておられました。奥さんの裕香さんも同じ心を持っておられます。先生ご夫妻とお子様がたが、チームとなって、若者のケアをしておられました。また、それらの活動の基に、神様の力を求める家庭礼拝があるとのことでした。キリスト者のビジョンは、考えることだけではなく、行動を伴うものです。ビジョン形成の力、また、それを行う力は、共同体として祈る礼拝を通して与えられることを、今回、学びました。

今回のリトリートは、体とともに、霊的にリフレッシュをされる貴重な時間でした。この日本を通して神様の御国が広がるビジョンをもう一度感じさせられたリトリートの時でした。

Volunteer

熊本ボランティア活動報告

本科生 2 年生　大宮季三

この度、熊本伝道所でのボランティア活動の働きに携わる機会が、私たち神学生に与えられました。4 月 25 日～ 29 日、5 月 27 日～ 30 日の日程において、私は熊本の地に遣わされました。

毎週、あるいは毎日のように目まぐるしく現地の状況は変わっていきましたが、「共に生きる」で報告されていますように、熊本伝道所での主な働きは、近隣の方々への物資の提供、来訪者との懇談、子どもたちの遊び場の提供などでありました。

熊本の地に着いた時、私は「なぜですか？」と震災の意味を改めて神様に問いたくなりました。しかしそれと同時に、教会やキリスト者を通して多くの物資が人々に届けらている光景を目の当たりにしました。神の愛は人の口を通してだけではなく、人の手や足を通してもまた届けられるのだと気付かされました。

約半数の神学生が熊本教会の働きに加わらせて頂きました。この経験は、普段ほとんどの生活を神学校の中で過ごしている私たち神学生にとって、「私たちが学んでいる神学とは何なのか」、「私たちが献身するとはどういう意味なのか」、「教会に仕えるとはどういうことなのか」、「私たちが伝える福音とはどのように広がるのか」、そのことを改めて考えさせられる機会でもありました。

私たちの働きは、とても小さなものであるかもしれません。新聞やテレビのニュース、あるいは来訪者の方々が語ってくださることは、被災の一部分に過ぎないのだと思います。被災地の痛みを本当に知ることはできないのかもしれません。しかし、神様はそのすべてをご存知の方です。

引き続き、被災地のために、また熊本伝道所の働きのために、祈りを捧げ続けたいと願っています。

宣教

韓国

「日韓宣教研究所」開所にあたって

吉田　隆校長

「日韓宣教研究所」開所にあたって去る2016年5月31日に、日本キリスト改革派広島教会牧師の申成日（シン・ソンイル）先生をお招きして「日韓宣教研究所」開所記念講演会を開催しました。先生からは「政治規準から見る日韓両教会の特色～改革・長老教会を中心に～」と題して、大変興味深い御講演をいただきました。

“興味深い”というのは、単に日本と韓国の改革・長老教会の教会政治の違いということにとどまらず、実際の教会運営における韓国人牧師や信徒のメンタリティの違い（例えば、教会で愛餐会をする時に食事代は絶対取らないこと、外で食事をした時には年長者が全員の分を払うこと、それはなぜなのか、等。皆さん御存知でしたか？）、また韓国人でありながら神学教育を改革派の研修所と神学校で修めて日本キリスト改革派教会の韓国人牧師第一号となられた先生御自身の苦労話等々、普段耳にすることのできない“生”の話を伺うことができたからです（講演記録をお望みの方は神学校まで御連絡ください）。

※　※　※

神学校が「日韓宣教研究所」を開所したのは、実にそのような実際の牧会・伝道の場で起こりがちな様々な誤解やトラブルを取り除き、日本宣教における日韓両教会の協力関係を実質的により健全かつ効果的なものとするための研鑽・研修機関を設けるためでした。

具体的には、年に一回の講演会や研修会を通して学びを積み上げることと同時に、日本宣教を志して神学校で学んでいる留学生や特別研究生たちへの教育と研修の提供、また日本人学生たちの韓国キリスト教理解の深化のためのプログラムなどを考えています。

日本の神学校の中では、戦前の中央神学校時代から、最も多くの韓国人卒業生を輩出している神学校の一つとして、今後とも両国における神の国の進展のために良き貢献をしてまいりたいと心から願っています。

協力

南アフリカ

南アフリカオランダ改革派教会（DRC）宣教団 ミッション・ジャパンについて

ステファン・ファン・デア・ヴァット教授

ミッションジャパンパートナーシップは、DRC の四つのファミリー教会と RCJ（とりわけ四国中会）との連絡、また日本への宣教師たちへのサポート等の取り組みを行っています。この RCJ との関係は 40 年以上も前から築かれており、相互の尊敬と愛情、そして共通の召命感をより一層深める関係が続いています。

ミッション・ジャパンのロゴ

ところで、虹はミッション・ジャパンにとって特別な意味を持っています。日本へ来る前色々な有意義な時に、神様が天に壮大な虹を見せてくださったことがありました。例えば、2009 年 3 月のミッション・ジャパンの会合の後に、Bloemfontein と言うところにおいて、RCJ への派遣が最終的に承認され、私とカリナが新たな宣教師として日本に送られると決定された時に、空に虹が現れたのです。このロゴ（写真付き）は南アフリカのクリスチャンと教会、すなわち色彩に富んだ国家（rainbow nation）と、日本（富士山）との繋がりを象徴しています。虹は私たちにとって神様が（この協力関係と召しにおいても）備えてくださるという約束を表す、非常に大切な象徴なのです。そして、虹の色は、神の救いと愛や恵みなどの光を象徴しています（第二コリント４章５―7 節に参考）。

ファン・デア・ヴァット家族
ステファン・カリナ・アンリ（9歳）
コーネリアス（7歳）・ルイ（4歳）
ステファン（junior）（2歳）

私たちの家族は主によって召され遣わされたことを固く信じています。2009年4月、多くの不安とチャレンジのある新たな国、ここにおいて新たな生活と働きを始めようとした時に現れた虹を見て、神様が「あなたは私の御心の内にある。私があなたをここで守る。ただ、虹を見なさい」というふうに感じたのです。そして、実際、四国中会の皆様を始め、神戸にきてからも、この神学校の皆様の優しい受け止め方、そして心温かい、おもてなしやお世話によって、神様の憐れみと愛を深く感じました。今でもそうです。家族に成り代わって心より感謝いたします。

主にありて
ステファン・ファン・デア・ヴァット
神戸改革派神学校

Bloemfontein にある
DRC Berg-en-Dal 教会

あいさつ

新しい体制での職員です。よろしく!!

加門勝老　事務長

この度４月より事務長として働かせていただくことになりました加門勝老（恵泉教会）です。よろしくお願いします。２年前、畑違いながらも、神学校監事に選出され、何とか務めさせていただいていましたが、前事務長植田昌彦長老がお辞めになるという話が出てきて、後任探しも大変だろうなと思っていたのですが、思いがけず話がこちらの方に回ってきてしまいました。西部中会内にある神学校として昔から少なからず関心を持ち、また神学校から多くの恵みも頂いていましたので、畑違いの仕事ということもありましたが、諸事情を考えると受けざるを得ないかと承諾をしました。足らない者ですが皆さんに助けられながら務めたいと思います。

スタッフを紹介します。

事務室は私と松村泉姉（神港教会）です。松村さんは1年余り前に事務室に入られましたが、超ベテランの仕事ぶりで、助けられています。厨房は中山清子姉（鈴蘭台教会）です。限られたギリギリの食費予算の中で、おいしい食事を作ってくださいます。私もこの恩恵に与っています。図書館は司書の松田美緒姉（西神教会）、
です。松田さんは一番長く勤められています。図書館が利用しやすいように整えてくださり、この度はホームページから図書検索できるようにしてくださいました。ご利用ください。

神学校が移転して20年がたちます。外観は美しいように見えますが、段々と老朽化しています。特に設備関係の経年劣化が激しく、早期の対応が必要なものばかりです。その中で、施設整備、美化など広範囲にわたって携わってくださるのが、江戸浩三長老（伊丹教会）です。悪い所があればすぐに直ります。また、講師の働きをしながら美化、宿泊などを担当してくださるのが袴田清子先生です。厨房、図書館などでは神学生夫人が手伝ってくださいます。みんなで何とか神学校を良くしようと頑張っています。改革派教会の中にも優れた賜物をお持ちの方が多々おられることと思います。それらを用いて神学校を助けていただければ幸いです。また神学校を訪れてください。

2016年神学校行事（抜粋）

1月5日（火）
第2学期開講講演（宮﨑契一先生）

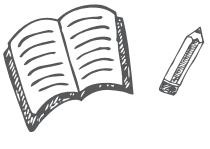
2月5日（金）
全校祈祷日－講師金起泰先生

4月8日（金）
第67回入学式

ファン・デア・ヴァット専任教授
就任記念開講講演

5月19日（木）～20日（金）
神学校リトリート

6月28日（火）
第64回卒業式



7月8日（金）-9日（土）
第40回夏期信徒講座

1 入学者募集

政治規準の改正に伴い、女性も「本科生」（教職養成コース）に入学できるようになりました。また、来年度から教職養成コースを 4 年制にし、あわせて信徒説教者・伝道者や“教会に献身する信徒”のための 2 年制コースを新設する予定です（本年 10 月大会に提案予定）。まずはお問い合わせください。

- 入学願書締め切り ：2017年 1月10日（火）
- 入学試験　　：2017年 2月14日（火）

2 神学校特別公開講義

I
講師：藤掛明先生（聖学院大学准教授、臨床心理士、博士〔学術〕）
会場：神戸改革派神学校チャペル
日時：2016年9月9日（金）午前8時30分～午後5時
「牧会者の自己点検」

II
講師：松田真二先生（日本キリスト教会神学校校長）
会場：神戸改革派神学校チャペル
日時：2016年9月14日（水）午前8時30分～午後3時
「ハイデルベルク教理問答における、キリストとの結合の教理」

3 秋の神学校公開講座

受講料1日 800 円

I 「予定論」
講師：松田基教先生（高松教会牧師）
会場：園田教会
① 9月24日（土）午後1時30分～4時
「なぜ、私が救われたのか －改革派信仰と予定論－」
②10月 1日（土） 午後1時30分～4時
「救われたものとして生きる －予定論と信仰生活－」

II 「属性論と贖罪論」
講師：石原知弘先生（園田教会牧師）
会場：神港教会
①10月 8日（土）午後1時30分～4時 **「神をどう語るか －属性論－」**
②10月15日（土） 午後1時30分～4時 **「十字架をどう語るか －贖罪論－」**

発 行
2016年9月1日発行 / 発行所：神戸改革派神学校 / 〒651-1306 神戸市北区菖蒲が丘3丁目1-3
TEL (078)952-2266 / FAX (078)952-2165 / 振替 01140-5-12672 /e-mail : rcj-kobe2266@nifty.com